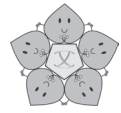


桃五だより



No.576

(6月号)

杉並区立桃井第五小学校

<http://www.suginami-school.ed.jp/momo5shou/>

2019.6.1

日常が培う底力

校長 川田 忠

桃五小合唱団の歌声が、会場に響きました。5月11日にイノホールで行われた「第29回森と花の祭典 みどりの感謝祭」において、本校の合唱団が3曲歌を披露しました。

みどりの感謝祭には、例年皇族方のご列席があり、今年度は秋篠宮眞子さまが名誉総裁の立場で参列されました。また、衆・参議院の議長、農林水産大臣政務官をはじめ政府関係者などが顔をそろえ、大変厳かな雰囲気の中でみどりの文化賞の顕彰等が行われました。

私たち大人でも特別な場所に参加していると感じたのですから、合唱団の子供たちにとっては「特別を越えた特別さ」であったでしょう。式典が始まる前まではリラックスしていた子供も、開始直前にはぴんと張り詰めた空気を感じていたようです。

そんな中で、合唱団の歌の披露がありました。2曲を歌い、しばらく間をあけてもう一曲を歌いました。いつもと違う場所で、いつもと違う雰囲気、いつも聞いてくれる人たちとは違う方々がいる中での子供たちの歌声でした。

子供たちの歌声は、いつもと変わりませんでした。子供たちの表情も、いつもと変わりませんでした。歌っている中で自然と体が揺れてくる様子も、いつもと変わりませんでした。合唱団の子供たちは、音楽室で練習してきたことと変わらずに、特別な場所で歌を披露することとなりました。

歌を聴いている人たちの目線は、合唱団の子供たちに注がれていました。私の座席から見ると、聴いている人たちの姿勢が、前のめりになっていくのがわかりました。そして、一曲終わるごとに、会場からは大きな大きな拍手が起こりました。

「どんなもんだい！」と私は心の中で叫びました。「これが桃五だぞ。これがうちの合唱団だぞ。」本当は声を出したかったのですが、特別な場所であること、節度ある態度が求められる立場であること・・・などなどが頭の中を巡り、

拍手の大きさに気持ちを届けるに留めました。

合唱団の子供たちの姿は、日常を積み重ねる大切さを語っていました。週に3日、朝練を続けてきた子供たちです。休日には、長い時間の練習も行ってきました。歌に費やした時間は、どれほどになるのでしょうか。そういった積み重ねた時間が、子供たちに確かな力をつけ、どのような場面でも発揮できる底力となっていたのでしょうか。

この日の合唱団の様子は、学校教育そのものを表していると思います。一日一日の学校生活、一時間一時間の授業を切り取れば、成長の様子や確かな成果を見取することは難しいかもしれません。しかし、子供たちが積み重ね蓄えていることは、その時その時には見えなくても、どこかで必ず子供たちの姿として表れてくる。子供自身が学んできた証になってくれると思っています。

そして、子供たちが底力を蓄えるように指導を続けている音楽専科教員の情熱、献身的なかかわりで合唱団を支えている保護者の皆さん、休日なのにも関わらず合唱団の出発出迎えをしてくれた校門警備員さん、会場には入れないから思いを届けますと言ってくれる支援本部のみなさん・・・桃五小には、大きな大きな大人の力に支えられて子供たちが底力を身につけていく姿があります。

いみじくも、桃五小合唱団がみどりの感謝祭で歌った「いのちの歌」の一節は、今の子供たちを表していました。

本当にだいじなものは 隠れて見えない
ささやかすぎる 日々の中に
かけがえのない 喜びがある

今日の学校を充実させ、子供たち一人一人に本物の底力を身につけさせる桃五の毎日を、これからも続けたいと思います。

6月の生活指導目標 校舎内での過ごし方を 工夫しよう

- 階段では右側を静かに歩こう。
- 教室移動の時は、クラスごとに並んでいこう。
- 雨の日の過ごし方を工夫しよう。
- 過ごしてよい場所で遊ぼう

毎日、校庭で元気に遊べる桃五の子供たち。しかし、毎日の学校生活で、階段やオープンなどでふざけてしまうと、思わぬけがをすることがあります。安全に楽しく過ごすために「これぐらいならいいかな。」という気持ちに流されずに、約束を守り落ち着いた行動ができる様になると大変素晴らしいと思います。また、6月になると雨の降る日も多くなります。雨で滑りやすくなっている階段やオープンスペースは、特に危険ですので、雨の日の過ごし方にも注意して過ごす様にしましょう。怪我なく安全に学校生活が過ごせる様に見守りや声掛けなど丁寧に行いたいと思います。どうぞよろしくお祈りします。

